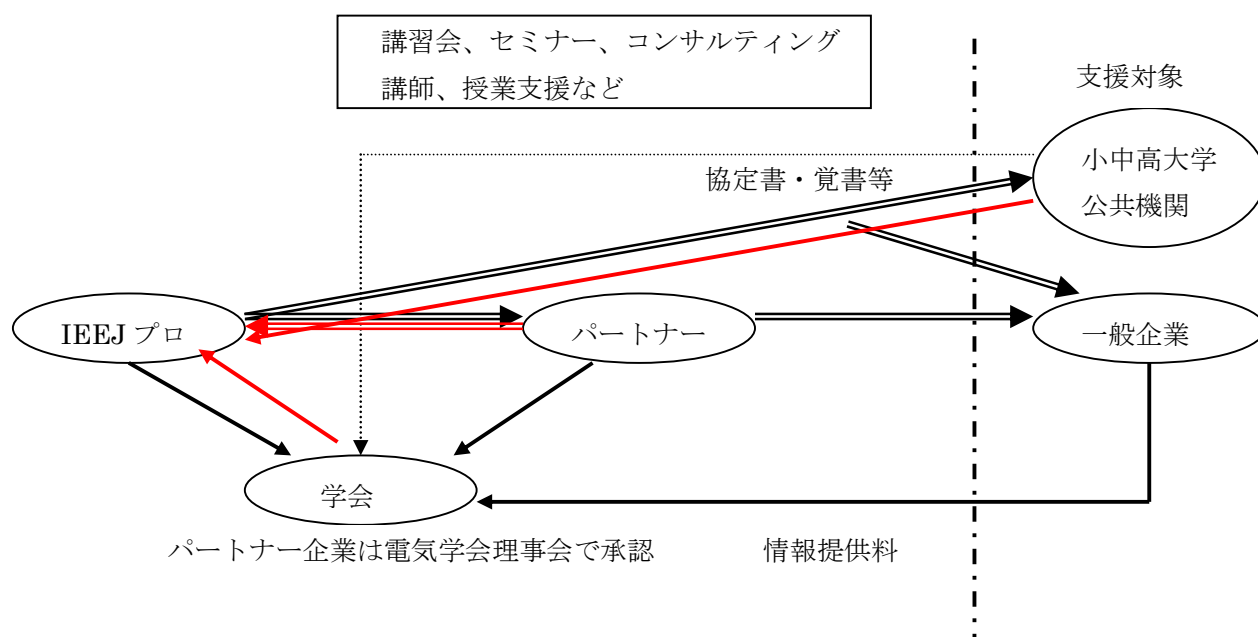




電気学会 IEEJ プロフェッショナル アクションレポート
2008年11月・第8号

IEEJプロフェッショナルの活動を活発化させるために有志により、2008年4月に定例会（懇談会）が発足した。会員は個人会員（IEEJプロフェッショナル資格者）と企業会員（IEEJプロフェッショナル制度に登録されたパートナー）で構成されている。懇談会は2008年4月以来10月までに7回開催されている。



懇談会では1時間程度の会員による講演を行うと共にプロジェクトの進捗状況、会のあり方（会計も含む）、今後の進め方等を議論してきたが、その結果IEEJプロフェッショナルのあり方を「IEEJプロフェッショナル会運営骨子」としてまとめた（ニュース1）。会の目的は「会員の意志を尊重し、IEEJプロフェッショナルの経験・保有技術の活用・交流・情報交換の場とし、会員個々の社会還元活動のみならず、電気学会の社会貢献を充実させる」こととしている。行事としては年1回の総会（会員以外も含む）開催や各種相談等に対応することも計画している。今後、会員の増加により会の活発化を図っていきたい。

懇談会主査 小山 徹



IEE J プロフェッショナル・ニュース

ニュース 1. IEE J プロフェッショナル会運営骨子

平成 20 年 10 月 21 日

懇談会

1. 設置趣旨

IEE J プロフェッショナル個々人の社会還元活動の支援・情報交換の場として IEE J プロフェッショナル会を設ける。

2. 目的

本会は会員の意思を尊重し、IEE J プロフェッショナルの経験・保有技術の活用・交流・情報交換の場とし、会員個々人の社会還元活動のみならず、電気学会の社会貢献を充実させることを目的とする。

3. 会員の構成

- (1) 個人会員と企業会員とで会は構成する。
- (2) 個人会員は IEE J プロフェッショナル資格者とする。
- (3) 企業会員は電気学会 IEE J プロフェッショナル制度に登録されたパートナーとする。

4. 行事

- (1) 総会
会員及び会員以外の情報交換のため、年 1 回開催する。
- (2) 定例会（懇談会）
会員相互の交流の場とし、月 1 回開催する。
- (3) その他
企業の経営、技術企画、技術開発、起業の相談等に対応する。

5. 会計

- (1) 会の運営、維持のため、別に定める会費（参加費）をこれに当てる。
- (2) 会計年度は毎年 4 月から 3 月とする。

6. 運営

- (1) 定例会は主査、副主査、幹事長、会計担当幹事、幹事数名により運営する。



ニュース 2. I E E J プロフェッショナル第 6 回懇談会メモ

1. 開催日時 : 平成 20 年 9 月 17 日 15 時～17 時 10 分
2. 場所 : 日刊工業新聞社会議室
3. 出席者 : 12 名
4. 議事
 4. 1 講演 北爪吉明氏
 - (1) パソコン、L S I 等の経験を教えたい。若い世代はコンピュータシミュレーションでやっている。実験していない。
 - (2) 日本はものづくりが停滞している。
 - (3) 商社には技術屋がいないとだめである。
 - (4) 懇談会における講演、討論のエッセンスはドキュメント化しておく必要がある。
 4. 2 日刊工業新聞社イベント事業部清水信好部長から同社の概要について話があった。
 - (1) 4 年位前経営が苦しく、1500 名いた社員をリストラして 500 名にしている。
 - (2) 技術継承が必要だということでセミナーは東京で 100 本位やっているが、基礎の方が人気が高い。
 - (3) 通信教育については電気電子も立ち上げたい。
 4. 3 プロジェクトの進捗状況報告
 - (1) 武蔵村山市理科教育支援については引き続き 10 月に行われる。(武子)
 - (2) 8 月 26 日武子氏と須田氏が日刊工業新聞社主催でセミナー講師を行った。(武子)
 - (3) 自由研究ゼミナールをホームページと市民センターへの広告で募集していた。ホームページで 2 名(付添い家族 3 名)の応募があり、8 月 21 日実施した。その後、付添いのお母さんから手紙があり、各種電池作りへのめりこんでいることが紹介された。(武子)
 4. 4 今後の進め方
 - (1) 7 月から議論されている I E E J プロフェッショナル懇談会運営骨子(案)の修正案が提案され、一部修正のうえ、承認された。全体の名称を I E E J プロフェッショナル会とし、定例会を懇談会とすることとした。会の総会も年 1 回開催することにした。
 - (2) I E E J プロフェッショナル懇談会会計の考え方が提案され承認された。
 4. 5 その他
 - (1) アメリカのシリコンバレーに在住の浦田丞 I E E J プロフェッショナルからのメールが深尾氏から紹介された。I E E J プロフェッショナルがサポートする電気・電子技術フォーラムの W E B サイトを作り、これから活躍する方々に電気・電子技術の情報提供を行ってはどうかとの提案がなされました。お金と手数料がかかり、効果もわからないので当面浦田氏と情報交換を行うことでどうかとの意見が出された。
 - (2) 電気学会 I E E J プロフェッショナルのホームページに不適切な記事があるので修正してもらうことになった。



- (3) 電気学会 I E E J プロフェッショナルのホームページにアクションレポートとして懇談会の講演や議事メモについてのせたらどうかという意見が出た。
- (4) 三井久安氏から「横浜市小学校理科支援に採用されたため、当会に出席が困難になり、都立産技研関係担当の主査を辞退する」旨の電子メールによる申し出があり、後任を考えることになった。
- (5) 懇談会では見学会を考えてもいいのではないかとの意見があった。

ニュース 3. I E E J プロフェッショナル第 7 回懇談会メモ

1. 開催日時：平成 20 年 10 月 21 日 15 時～17 時 10 分
2. 場所：電気学会会議室
3. 出席者：14 名
4. 議事
 4. 1 講演 関井康雄氏「技術と技術者倫理」
 - (1) 倫理、技術と技術者、現代技術が絡む深刻な問題、技術者倫理のテーマ、学協会の倫理綱領、技術者倫理教育の事例、倫理教材事例等の講演であった。
 - (2) 人と組織はどういう行動をとるか。学会は積極的に述べるべきである。技術者をいかに育てるか。金と倫理とのバランスをどうとるか等の意見があった。
 4. 2 プロジェクトの進捗状況報告
 - (1) 武蔵村山市理科教育支援については 10 月 23 日、30 日に公開で行われる。(武子)
 - (2) 石川県内の出前事業実績のメールでの報告の紹介。2007 年 10 時限実施、2008 年 11 月 8 時限予定。(小原)
 - (3) 平成 20 年 9 月 12 日日刊工業新聞社セミナー「EMC とノイズ対策の基礎知識」のタイトルで講師を勤めた。(大島)
 4. 3 今後の進め方
 - (1) 7 月から議論されている I E E J プロフェッショナル懇談会運営骨子(案)については前回承認されたが、最終案を確認した。案はとることとした。
 - (2) 電気学会ホームページにおける I E E J プロフェッショナルアクションレポートの作成要領(案)が提案された。ホームページで追っかけるのが大変である。一般の人が読めないのではないかとの意見があった。今後ホームページについては修正お願いしていくこととするが、当面まずアクションレポートに最新情報を載せ、活用することとした。



4. 4 その他

- (1) 電気学会で 15 講義の寄付講座を募集している。現在 8 名の応募がある旨紹介が吉澤課長から紹介があった。
- (2) 都立産技研関係担当の主査については植田正紀氏を推薦することとした。
- (3) 平成 20 年 12 月 4 日の都立産技研との連携セミナーについては実施される。があった。

ニュース 3. I E E J プロフェッショナル第 7 回懇談会メモ

1. 開催日時：平成 20 年 10 月 21 日 15 時～17 時 10 分

5. 場所：電気学会会議室

6. 出席者：14 名

7. 議事

4. 1 講演 関井康雄氏「技術と技術者倫理」

- (1) 倫理、技術と技術者、現代技術が絡む深刻な問題、技術者倫理のテーマ、学協会の倫理綱領、技術者倫理教育の事例、倫理教材事例等の講演であった。
- (2) 人と組織はどういう行動をとるか。学会は積極的に述べるべきである。技術者をいかに育てるか。金と倫理とのバランスをどうとるか等の意見があった。

4. 2 プロジェクトの進捗状況報告

- (1) 武蔵村山市理科教育支援については 10 月 23 日、30 日に公開で行われる。(武子)
- (2) 石川県内の出前事業実績のメールでの報告の紹介。2007 年 10 時限実施、2008 年 11 月 8 時限予定。(小原)
- (3) 平成 20 年 9 月 12 日日刊工業新聞社セミナー「EMC とノイズ対策の基礎知識」のタイトルで講師を勤めた。(大島)

4. 3 今後の進め方

- (1) 7 月から議論されている I E E J プロフェッショナル懇談会運営骨子(案)については前回承認されたが、最終案を確認した。案はとることとした。
- (2) 電気学会ホームページにおける I E E J プロフェッショナルアクションレポートの作成要領(案)が提案された。ホームページで追っかけるのが大変である。一般の人が読めないのではないかとの意見があった。今後ホームページについては修正お願いしていくこととするが、当面まずアクションレポートに最新情報を載せ、活用することとした。

4. 4 その他

- (1) 電気学会で 15 講義の寄付講座を募集している。現在 8 名の応募がある旨紹介が吉澤課長から紹介があった。
- (2) 都立産技研関係担当の主査については植田正紀氏を推薦することとした。
- (3) 平成 20 年 12 月 4 日の都立産技研との連携セミナーについては実施される。



事務局からのお知らせ

IEEJプロフェッショナルに役に立つセミナー情報や大学・学校・教育委員会などでIEEJプロフェッショナルの人たちが活躍できるお話がありましたらお知らせ下さい。

連絡先：社団法人電気学会 技術者教育課：吉澤 純一

E-mail : yoshizawa@iee.or.jp 電話 : 03-3221-3710